

令和7年度（2025年度）大分大学グローバル感染症研究センター
研究集会報告書

採択番号	2025M08	
申請者に関する事項	氏名	Gunturu Revathi
	所属機関名	Aga Khan University
	職名	教授
研究集会名	JSPS 拠点形成事業キックオフミーティング	
開催期間	令和7年（2025年）10月17日 ～ 令和7年（2025年）10月18日	
本センター担当教員	山岡 吉生	
令和7年度（2025年度）研究集会の概要		
<p>本研究集会は、本学とアフリカ地域の複数の研究機関が連携して実施する日本学術振興会（JSPS）拠点形成事業「アフリカにおけるピロリ菌およびマイクロバイオータ研究拠点形成」のキックオフミーティングとして開催された。本研究集会にはアフリカ各地域の研究代表者が参加し、今後3年間にわたる国際共同研究活動の枠組み、役割分担、および運営方針を共有した。あわせて、各国・各機関における研究基盤、対象集団、保有試料、解析体制、倫理面の課題等の現状が報告され、本事業を推進するための共通認識が形成された。</p> <p>本研究集会を通じて、本JSPS拠点形成事業における4つの研究課題、すなわち、①ピロリ菌およびマイクロバイオータの地域差に基づく病原性評価とリスク層別化、②胃癌検診を通じたピロリ菌感染率および胃癌発生率の実態把握、③抗菌薬耐性の評価と標準的な管理指針の整備、④ピロリ菌のゲノム疫学解析を通じた遺伝的多様性と人類移動史・共進化の解明、について、各国の現状と課題が整理され、今後の研究方針が確認された。これにより、地域横断的に比較可能なデータ収集と解析を進めるための研究体制の基盤が整備された。</p> <p>また、本国際共同研究グループの活動方針が、昨年発足したAfrican Helicobacter and Microbiota Study Group (AHMSG) の活動方針と一致することが確認され、AHMSGと連携した持続的な研究拠点形成を進める体制が明確化された。さらに、本研究集会は、アフリカ地域におけるピロリ菌およびマイクロバイオータ研究のネットワーク形成を促進するとともに、新たな共同研究課題の創出と次世代研究者育成を進める出発点となった。加えて、European Helicobacter and Microbiota Study Group (EHMSG) および米国National Institutes of Health (NIH) との連携可能性についても意見交換が行われ、本学が当該分野の国際連携を主導する基盤が強化された。</p>		